



しかりわけ 志賀理和気神社における「千年杉」の後継樹が里帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

岩手県紫波郡紫波町の志賀理和気神社にある推定樹齢約1,000年の「千年杉」の後継樹が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場(岩手県滝沢市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、岩手県紫波郡紫波町にある志賀理和気神社の「千年杉」の後継樹として、さし木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和7年6月15日(日) 午前10時30分

場所：岩手県紫波郡紫波町桜町字本町川原3-1(志賀理和気神社)

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 竹田 宣明(たけだ のぶあき)

担当者： 収集管理係 小川 広大(おがわ こうだい)

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 濱本 光(はまもと ひかる)

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

メールアドレス：touhokuikusyu@ffpri.affrc.go.jp

※取材される方は、事前に上記連絡先までご連絡ください。

本資料は、岩手県政記者クラブに配布しています。



背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 339 件の要請があり、266 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 6 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りするのは、志賀理和気神社にある「千年杉」です。

「千年杉」の推定樹齢は約 1,000 年、胸高位置の太さ（直径）は約 1.8m、樹高は約 35m に達する巨木で、長年、志賀理和気神社の御神木として大切にされてきました。

しかし、平成 19 年（2007 年）に社殿の裏を流れる北上川が大雨であふれ、周辺地域では大きな水害が発生し、志賀理和気神社の社殿も床下浸水等の被害を受けました。この水害の後、治水対策として北上川の被害地域周辺に堤防を築くことになり、志賀理和気神社の全面移転および「千年杉」の伐採が決定しました。このため、令和 3 年（2021 年）に志賀理和気神社から林木遺伝子銀行 110 番へ後継樹の増殖の要請がありました。

要請を受け、東北育種場は令和 3 年（2021 年）11 月 12 日に穂木^{ほぎ}20 本程度を採取してさし木により増殖を行いました。今回里帰りする苗木は、さし木増殖に成功し、その後育成した 9 本の苗木のうちの 3 本です。これら里帰りする 3 本の苗木は、令和 3 年（2021 年）に移転した志賀理和気神社の敷地内に植栽されます。

この苗木は、さし木により増殖されたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「千年杉」として成長することが期待されます。

図、表、写真等



「千年杉」の原木 所有者ご提供（令和 3 年 11 月）



さし木増殖した後継樹（令和 7 年 5 月）